

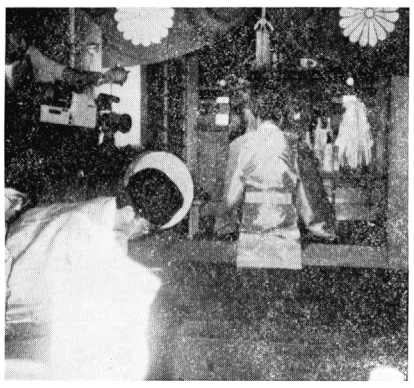


毎月十五日発行 社会 大像 宗像 定価 一年送料共 1000円

神具、装束 株式会社 井筒 福岡市博多区東公園二丁目一三三(一三三) 電話福岡(五)六六一一九四五六

沖津宮現地大祭齋行

神の島に全国各地より参拝



玄界灘の真只中に浮ぶ、絶海の孤島沖ノ島に於て、五月二十七日、沖津宮現地大祭が斎行された。

現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島の北方海上で東郷提督率いる連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、日本海軍の大勝利を記念して毎年行っている祭典である。予め参拝希望者を募り、例年百名前後の参拝団を編成しているが、本年も全国各地より熱心な参拝者の申し込みが相次ぎ、厳選の結果百四十名の参拝団となった。

前日の二十六日、早朝より雨、海上も時化模様となり明日の渡島が心配されたが、雨の中、斎泊地である大島に参拝を許可された人々がフェリーで来島、沖津宮の社務所に渡島の手續を済ませた。午後六時、沖津宮本殿にて宵宮祭と渡島祈願祭を斎行、祭典終了後、参拝上の諸注意、各自乗船する船名が発表された。天気予報では明日の天気も雨とされ、渡島中止の場合は、大島の沖津宮通拝所に於て祭典を斎行する旨が全員に伝えられ解散となった。一同は照海殿、旅館、

本殿前に参集した。ここには、千古斧鉞を加えない原始林の中に巨巖が重畳しており、古代そのままの祭場である。午前十時、静寂な原始林の中に太鼓の音が響き沖津宮現地大祭が斎行された。

翌二十七日、午前六時、大島港に集合、天気は曇り、海上は鏡の如く穏やかで視界もよく、絶好の渡島日和となる。点呼をとり、それぞれ海上保安庁「げんろん」を始め大島の漁船、仲洋丸、沖津丸、沖ノ島丸、春日丸、沖津丸の五隻に分乗し大島港を出港、曇天の下、鉛色の海に白波を立て一路沖ノ島へ向け北上する。二時間を過ぎる頃、船団は、小島島、御門柱の岩礁を通り抜け、眼前に大々々々を過ぎる沖ノ島の懐に静かに入港した。

一昨年来全国にくりひろげられた、天皇陛下御在位六十年奉祝運動を通じて大きな感動を受けた岐阜県下の中・高校生有志千余名が、陛下の御聖徳への感動の輪をさらにひろげて、自分たちの生き方を見直すなかで祖国日本の歴史・伝統尊重の気運を高めようとして、日本の歴史と伝統を学び伝える岐阜県中学生・高校生文化会議」を結成。去る四月二十九日の佳節の日、第二回「4・29天皇陛下御誕生日を奉祝する中学生・高校生集い」にあわせてその結成記念大会を催したというニュースが伝えられている。

周知のよう、日本を守る国民会議が母体となって組織された「天皇陛下御在位六十年奉祝委員会」では、奉祝事業の一つとして映画「天皇陛下」を制作し、全国的にも上映運動を展開した。岐阜県でも県下六十カ所以上で上映されたが、若い世代に中高生に与えた感動は深く、その感動の音が高まって昨年四月「4・29奉祝生日記」を奉祝する中学生・高校生集い」となり、また二百名近い中高生生の感想文を集めた記念文集の発行にもなった。

この「東郷提督ビル」が参拝者に直会用として配られた。この「東郷提督ビル」は、フィンランド製で、日露戦争当時、フィンランドは帝政ロシアの支配下にあったが、バルチック艦隊が日本に決戦を挑むべく出撃する時、フィンランド人は海岸に出で見送る、その時彼らが折ったのは、「バルチック艦隊が再びここに帰ってきませんように」という願いが込められて、また再び戻ってくるであろうに、という悲壮なものであった。

大島 原節子 宿に見ゆ矢部の河原に網を打つ翁は度々場所移りゆく(評) 投網の場所を移る翁が見る。只、「見ゆ」は「見る」と二句へ続けた。

東郷 藤崎 辰子 朝霧は次第に深く鈴鹿嶺のふもと狭き町を潜(しず)ます

自由ヶ丘 後藤 君代 身のまはり物のある世に生きて乏しき頃の安らぎを恋ふ

このニュースは、神社界の常識からいって特別なものではないかもしれないが、しかし一般青少年の傾向に照らしてみればきわめて注目し得る。前号の本欄で、沖組のある高校の女生徒が卒業式会場で掲げられていた国旗を持ち去って式の執行をおくられたことについての論説を読んだ人々には、この岐阜県の中・高校生生の動きは当然、特別の感懐を催させるに相違ない。

下御誕生日を奉祝する中学生・高校生集い」となり、また二百名近い中高生生の感想文を集めた記念文集の発行にもなった。

この文化会議に参加した中・高校生たちがどのような姿勢で今年4・29集会で発表された六人の主張をみればわかる。中学一年の時、陛下の終戦時のエピソードを知って感動した。陛下の国を

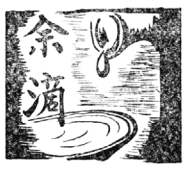
福岡中央 山下しづえ 工事場のなかし水はゆるゆると蛇行(だこ)なし つつ側溝に入る (評) 何の変哲もないようであるが、単純で言葉に無駄がなく自然のままに鑑賞できる。結句の押さえに作者の眼の確かさを思う。

心強い 岐阜県中・高校生の動き

この文化会議に参加した中・高校生たちがどのような姿勢で今年4・29集会で発表された六人の主張をみればわかる。中学一年の時、陛下の終戦時のエピソードを知って感動した。陛下の国を

しかし、そう評しつつも「赤旗」が、この4・29集会を四段抜きの見出しで大きく報道しているのは見落せない。そして、御在位六十年奉祝のよう活動として発展してきていることに危険性を感ずるとか、そのような活動が「草の根」運動を圧倒する活動として、将来を護衛する私に患者が、その彼ららの危機感を引き出すほどの迫力があること、われわれもまた深く思うべきであろう。(神社新報より)

大島 原節子 宿に見ゆ矢部の河原に網を打つ翁は度々場所移りゆく(評) 投網の場所を移る翁が見る。只、「見ゆ」は「見る」と二句へ続けた。



第三一回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選

第十回宗像王位戦記念大会

大会審判長に

大山康晴十五世名人を迎えて

各県対抗戦は鹿兒島県が優勝 第十代宗像王位に北村公一五段



（準決勝）
長崎 2-1 佐賀
鹿兒島 2-1 熊本
（決勝戦）鹿兒島 2-1 長崎
原川 1-0 山丸
北村 1-0 南
〇 北村 1-0 有川
〇 北村 1-0 有川
本年は、例年比べて、十代、二十代の新人の若手選手がふえてひとときわ目だった。最少は長崎県代表の中学生、有川大輔四段（13）で、最高は山口県代表の山本堅三郎四段（71）と中・高・大学生、一般と若手選手の活躍が大きいに期待された大会でもあった。

九州・沖縄・山口各県予選を勝ち抜いた代表は、昨年度（昭和61）に福岡県六名（熊本・鹿児島・山口）と西日本アマチュア将棋界の王位を決める、第十回宗像王位戦（宗像大社、西日本新聞社主催、主管：日本将棋連盟、テレビ西日本）は、審判長に大山康晴十五世名人を迎えて、去る五月九日、十日の両日、当大会として、九月午後八時（一チーム三名）十日前から個人戦（各県二名ずつ、但し福岡県、南・北の各二名が、いづれもトーナメント方式、団体戦の方は持ち時間各三十分、個人戦の方は持ち時間は各四十分で以後秒読みで行われた。出

個人戦は、十日前午前八時三十分、境内の樹木の緑の香る当大社斎庭に於て、大山十五世名人審判長の合図で熱戦が展開された。王位決定戦は、北村公一五段（21）と福岡県南、九州大学四年生（27）、大島秀峰四段（27）と大分県、分南高校教諭の対局となり激戦の末、北村五段が見事、第十代宗像王位栄誉賞を獲得した。

大鳥	古賀	佐賀県
石垣	有川	田中 雅彦 (49) 四段
小森	竹下	古田 一郎 (20) 五段
南	田辺	△弟子丸 静麿 (61) 四段
北村	増永	長崎県
大鳥	増永	有川 大輔 (13) 四段
石垣	小森	△石丸 孝義 (20) 三段
南	熊本	熊本県
北村	石垣	前田 貞司 (68) 五段
大鳥	石垣	坂根 剛之 (41) 五段
北村	石垣	△根田 文次 (36) 五段
大鳥	石垣	大分県
北村	大鳥	大島 秀峰 (27) 四段
北村	大鳥	玉崎 伸郎 (29) 四段
北村	大鳥	△神崎 俊郎 (29) 四段
北村	大鳥	宮崎県
北村	大鳥	神垣 巖 (27) 三段
北村	大鳥	竹下 修 (31) 四段
北村	大鳥	△落合 博 (30) 二段
北村	大鳥	鹿兒島県
北村	大鳥	原川 卓美 (36) 五段
北村	大鳥	△折原 哲朗 (36) 五段
北村	大鳥	△山本 正志 (24) 三段
北村	大鳥	山口県
北村	大鳥	山本堅三郎 (71) 四段

（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位
（準決勝戦）敗者二名は三位

宗像大社氏子会総代会の昭和六十二年第一回総会が、去る五月二十五日午前十一時より宗像大社清見殿に於て開催された。宗像大社氏子会総代会の昭和六十二年第一回総会が、去る五月二十五日午前十一時より宗像大社清見殿に於て開催された。宗像大社氏子会総代会の昭和六十二年第一回総会が、去る五月二十五日午前十一時より宗像大社清見殿に於て開催された。

宗像大社氏子会
会長 河野 幸人
副会長 藤井 睦雄
幹事 楠田 繁男
出光 太蔵
黒石 満
花田 謙吾
宗像大社氏子会
会長就任にあたり
去る五月三日より五日まで宗像大社春季奉納盆裁展が開かれた。これは、宗像大社奉納盆裁会（会長田中一男）が、参拝者の多い連休時に、何か展示物と考へ、併せて盆裁の普及、技術の研鑽を目的として開かれていた。今年で四回目を迎えたが、あざやかな線を増した松等の中に、ふじ、つつじ等の花ものがまじり、会場

第四回宗像大社春季奉納盆裁展開催
去る五月三日より五日まで宗像大社春季奉納盆裁展が開かれた。これは、宗像大社奉納盆裁会（会長田中一男）が、参拝者の多い連休時に、何か展示物と考へ、併せて盆裁の普及、技術の研鑽を目的として開かれていた。今年で四回目を迎えたが、あざやかな線を増した松等の中に、ふじ、つつじ等の花ものがまじり、会場

夏越祭・大祓神事御案内
暑さも日に厳しさを増してまいりました。このお祭りは、大祓神事が中心に行われ心身の罪・穢を人形に託して取り除き、清々しい気持ちをもって明日の生活を安らかにするための祈りをこめたお祭りでもあります。
本年も左記により斎行致しますので、皆様お誘い合せの上御参拝下さいませよう御案内申し上げます。
六月吉日
宗像大社
崇徳各位
一、七月三十一日 午後五時、大祓神事（禊門に芽でつくった大きな輪を巻る神事）引続き、夏越祭
一、皆禊方に御送付申し上げます人形の赤白は、男女の区別を表わしたものであります。男は白、女は赤に氏名、年令を書き、息を吹きかけ、初穂料をさえられ七月三十一日までに到着するよう御返送下さい。
一、人形の送付を受けておられない方で御希望の方は、当社宛御連絡下さい。



人をも増やしてきた。三ヶ日にわたる盆裁展は晴天に恵まれ、また連休とあって、鑑賞者、参拝者で賑わった。さらに地元愛好家の出品とあって近郊の人々にも除々に親しみあるものになってきた。
これより先、三月二十日に奉納盆裁会役員会が開かれたが、会長に田中一男氏が再選された。また新しく顧問を設け、盆裁展の一層の充実、発展を図ることになった。顧問には、村上主理ならびに説明にあたっては、常連の愛好者も増一氏（津屋崎町在住）が選ばれた。

神宝 宗像大社人形について
国宝指定（五代人形）
この古代人形は、約千五百年前宗像大神に捧げられたもので、大祓神事の永い歴史と伝統を物語っております。



